小　学　校

平成２６年度

教育研究員研究報告書

道　徳

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅴ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　1　基礎研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　2　調査研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

　3　授業研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

　4　実践事例

（1）第３学年　主題名：本当の友達　２－（３）友情　・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
資料名：「ともだちや」

（2）第５学年　主題名：だれに対しても親切に　２－（２）思いやり・親切　・・・・・・・１２
資料名：「くずれ落ちた段ボール箱」

（3）第２学年　主題名：いっしょにあそぼう　２－（３）友情・助け合い　・・・・・・・・１６
資料名：「およげないりすさん」

（4）第４学年　主題名：何よりも大切なもの　３－（１）生命尊重　・・・・・・・・・・・２０
資料名：「人間愛の金メダル」

Ⅵ　研究の成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

研究主題

豊かな心で　未来を拓く　道徳の時間

～関わりに着目し、自己を見つめる指導過程の工夫～

Ⅰ　主題設定の理由

全ての子供たちは本来、自分の夢や未来に向けてよりよく生きようとする願いをもっている。しかし、子供たちを取り巻く社会環境は、グローバル化、経済・産業構造の急激な変化、世界的な環境問題の深刻化、家庭環境の複雑化が進む現代社会において、急激に変化し続けている。このような社会環境の変化は、自尊感情の乏しさ、基本的生活習慣の未確立、規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下等、子供たちが豊かな心をもち、未来に向けて、人間としてよりよく生きようとするのを妨げる要因になっている。

また、いじめ問題の深刻化及びいじめ問題への対応は、日本の教育における大きな課題である。平成25年２月に開かれた、教育再生実行会議「いじめ問題等への対応について（第一次提言）」においては、「国の未来を担う子どもたちの中で陰湿ないじめが相次ぎ、教育の再生は最重要課題となっている」と示されている。東京都教育委員会も平成26年７月に、「いじめ総合対策」を策定し、具体的ないじめへの対策を示している。

そのような社会環境の中で、文部科学省の平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙調査では、「友達との約束を守っていますか」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問項目全てで、昨年度より肯定的な回答をする子供の割合が増えた。

また、東京都の平成 26 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の「自分のことを大切な存在だと感じていますか」という項目では、昨年度より肯定的な回答の割合が減っている。このような調査結果から、子供たちは「よりよく生きたい。」という思いをもちながらも「自分をかけがえのない、大切な存在であると実感することができていない。」ことが分かる。

このような状況において、これからの未来を担う子供たちが、様々な関わりを通して、道徳的価値に気付き、自己の生き方を見つめ、考えを深めることは、よりよく生きていく上で重要な意味をもつ。道徳教育を充実させることを通して、子供たちの自律的な道徳的判断力を養い、豊かな心を育んでいくことが重要であると考える。そして豊かな心をもつことは、子供たちのよりよく生きようとする力を育み、自分の力で未来を切り拓いていこうとする姿に繋がっていく。

そこで、子供たちが「豊かな心」を育み、自分の力で「未来を拓く」ことができるようにするために、道徳の時間の指導過程を工夫することによって、道徳の時間で子供たちが、自分と自分を取り巻く様々な関わりを大切にしながら、自己を見つめられるようにしたいと考え、本研究主題並びに副主題を設定した。

Ⅱ　研究の視点

１　研究主題「豊かな心で　未来を拓く　道徳の時間」について

（１）「豊かな心」

小学校学習指導要領解説道徳編では、「豊かな心」を生活の中で生かしている例として、「困っている人がいれば優しく声をかける」「ボランティア活動などの人の役に立つことを進んで行う」「喜びや感動を伴って植物や動物を育てる」「日常生活の中で少しでも自分をよくしようとする心掛け」「自分の成長を素直に喜ぶ」「人の喜びや悲しみを共有することができる」「美しいものを美しいものと感じることができる」と示されている。これらの例に共通して根差しているのは、生命尊重の心や、自他を尊重する心である。そこで、子供たちの「豊かな心」は、自他の生命を尊重しようとする心を基盤として育まれ、他者に思いを向けて気持ちを推し量り、相手を尊重することができる心である、と考えた。また、相手の気持ちを尊重するのと同じように、感じ方や考え方など、自分の思いも大切にしてほしい、と考えた。

以上のことから、育んでいきたい「豊かな心」を以下のように定義した。

①自他の生命を尊重する ②相手の気持ちを推し量り、自分の思いも相手の思いも大切にする

（２）「未来を拓く」

社会の急激な変化に対応していくためには、自ら学び、考え、行動する力や社会の発展に主体的に貢献する力を培うことが求められる。急激に変化していく社会の中でも、子供たち一人一人が夢や希望をもって未来を拓き、人間としてよりよく生きようとする心を育む指導を、より充実させることが大切であると考えた。小学校学習指導要領解説道徳編には、「未来を拓く主体性のある人間」について、「常に前向きな姿勢で未来に夢や希望をもち、自主的に考え、自律的に判断し、判断したことは積極的にしかも誠実に実行し、その結果について責任をとることができる人間である。」と記されている。これらを踏まえ、「未来を拓く」を、以下のように定義した。

○変化の激しい社会の中で、人間としてよりよく生きること

「豊かな心」「未来を拓く」の言葉の定義を基に、道徳教育における、子供たちの様々な関わりに着目しながら、道徳的価値を自己の生き方とかかわらせて考え、自己をみつめることができるような指導過程の工夫を行うことにより、子供たちの、よりよく生きようとする豊かな心を育むことができるのではないかと考え、研究を進めていくこととした。

2　研究構想図

社　会　環　境	児　童　の　実　態	小学校学習指導要領　道徳
・知識基盤社会化、グローバル化 ・社会全体のモラルの低下 ・いじめ問題の深刻化	・生命を尊重する心の希薄化 ・自尊感情が低い ・人間関係を築く力や社会性が十分ではない ・社会体験、自然体験が不足している ・「よりよくなりたい」という願いをもっている	・道徳教育は、人間としての自らの人生をどう生きるかを一人一人に問いかけるもの ・道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することが目標

研究主題		
豊かな心で　未来を拓く　道徳の時間 ～関わりに着目し、自己を見つめる指導過程の工夫～		
目指す児童像		
自他を尊重し、自己を見つめ、よりよく生きようとする児童		
低学年	中学年	高学年
自分や身近な人を大切にし、よりよい関わりを考えられる児童	仲間集団、生活を支えている人々の立場に立って考え、自分を見つめられる児童	社会や集団の一員として、相手の立場に立って、自律的に考え、行動しようとする児童
研究仮説		
関わりに着目し、自己を見つめる指導を充実させれば、自他を尊重し、よりよく生きようとする児童を育てることができるだろう。		
基礎研究	調査研究（対児童）	
○「豊かな心」「未来を拓く」の定義 ○道徳教育における「関わり」の分析 ○「自己を見つめる」の定義 ○仮説検証のための方法分析	○「関わり」に関する意識調査 ○ねらいとする価値に関する実態調査	

研究の柱			
1　ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用	2　資料提示の工夫	3　話合い活動の工夫	4　展開後段の充実

授業研究		
学　年	主題名　内容項目	資料名
３年	「本当の友達」　２－(３)信頼・友情	「ともだちや」
５年	「だれに対しても親切に」２－（２）思いやり・親切	「くずれ落ちただんボール箱」
２年	「いっしょにあそぼう」２－（３）信頼・友情	「およげない　りすさん」
４年	「何よりも大切なもの」３－（１）生命尊重	「人間愛の金メダル」

Ⅲ　研究仮説

関わりに着目し、自己を見つめる指導を充実させれば、自他を尊重し、よりよく生きようとする児童を育てることができるだろう。

Ⅳ　研究の方法

1　基礎研究	2　調査研究	3　授業研究
○「豊かな心」と「未来を拓く」の言葉の定義 ○道徳教育における「関わり」の分析 ○「自己を見つめること」の言葉の定義と分析	○自己や他者及びその関わりに関する実態調査（児童対象） ○未来への夢や希望に関する実態調査（児童対象）	○関わりを豊かにする指導の工夫（４校で４回実施） 1　ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用 2　資料提示の工夫 3　話合い活動の工夫 4　展開後段の充実

Ⅴ　研究内容

1　基礎研究

研究主題の「豊かな心」「未来を拓く」の捉え方、及び「道徳教育における『関わり』の考え方」「『自己をみつめる』の定義」について学習指導要領・参考文献・先行研究及び講師の先生方からの指導を基に考察し、研究員間で共有化を図った。

（1）道徳教育における「関わり」の考え方

小学校学習指導要領解説道徳編の「第２節　道徳教育の基本的在り方　1　道徳の意義」では、「人間としての在り方を自覚し、よりよい生き方を求めていくのは、日々の生活における様々な関わりを通してである。その関わりとして、道徳との関連において、特に自分自身、他の人、自然や崇高なもの及び集団や社会などを指摘できる」とある。

そこで、研究主題を「豊かな心で　未来を拓く　道徳の時間」と設定し、道徳教育における関わりに着目して、研究を進めることとした。中でも、①資料との関わり、②他者との関わり、③価値と自己の生き方との関わり、④未来への夢や希望との関わりに着目した。道徳の時間において、児童は資料を通して道徳的価値について考えを深めたり、他者の考え方に触れたりする中で、道徳的価値と自己の生き方を深く関わらせていく。そしてそれは、未来への夢や希望についての思いや願いを深め、主体的によりよく生きようとする心を育むことに繋がっていく。

道徳の時間において、これらの関わりに着目し、指導過程を工夫することで、子供たちがより自己の生き方について考えを深め、研究主題に示している豊かな心を育んでいくことができると考えた。

（2）道徳の時間における「自己をみつめる」

小学校学習指導要領解説道徳編の「第３節　道徳の時間の目標　（３）道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める」において、道徳的価値の自覚とは、「児童がねらいとする道徳的価値が大切であることに気付いたり（価値理解）、道徳的価値は大切であるが、それに根付いた行為は容易ではないことに気付いたり（人間理解）、道徳的価値の実現に向けては、多様な感じ方・考え方があることに気付いたり（他者理解）することを自分との関わ

りで捉え、自己理解を深めていくことである。」「それらの価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われていくことであり、その中で自己や社会の未来に夢や希望をもてるようにすることである。」と示されている。

これらのことから道徳の時間において、「自己をみつめる」とは、子供たちがねらいとする価値に関して、これまでの自分自身を振り返り、自己の生き方についての考えを深めることであると捉えた。そしてそれは、子供たちが将来の自分に夢や希望をもち、社会的自立に向けてよりよい生き方をしようとすることにつながっていくと考えた。

2　調査研究

【調査目的】児童の自己理解・他者理解に関する意識や未来への希望に関する意識について調査することにより、研究仮説の根拠とするとともに、発問構成等に生かす。

【調査対象】都内小学校 13 校の児童

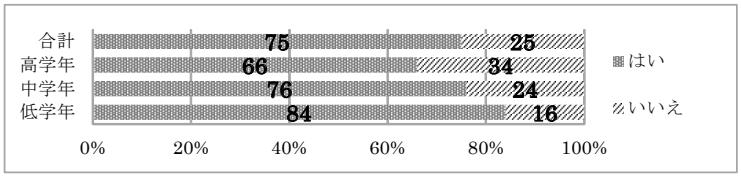
低学年 180 名　中学年 417 名　高学年 236 名　計 833 名

【調査方法】質問紙法（選択式）

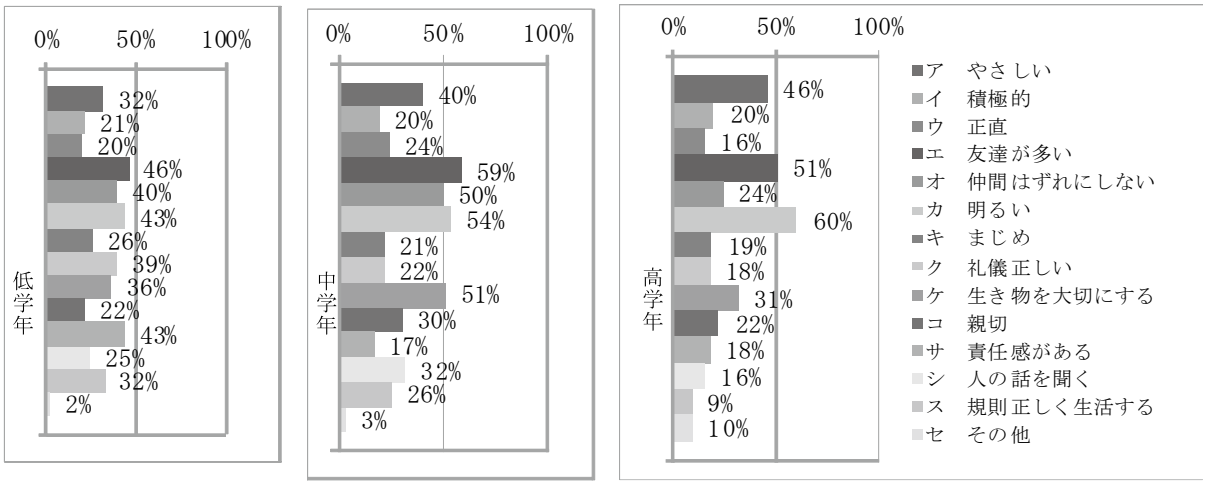
（１）自他の尊重についての質問

①　自分自身について

「自分の好きなところを知っていますか。」



「自分の好きなところはどんなところですか。」

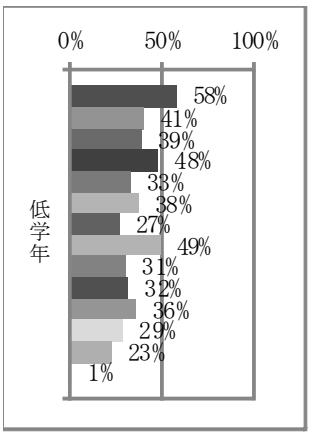


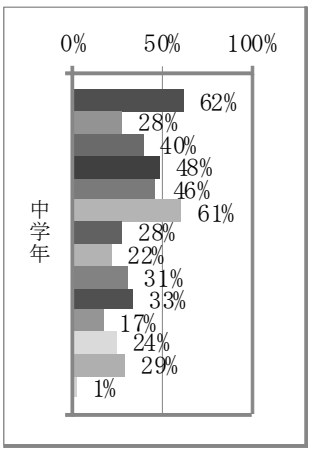
〈考察〉

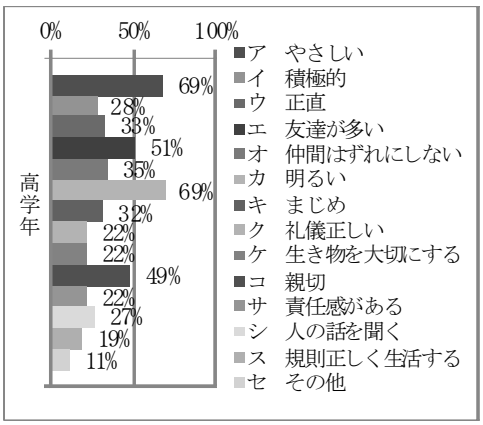
・「自分の好きなところを知っている」と答える割合が高学年になるほど下がっていて、自己肯定感が低くなる傾向がある。また、「自分の好きなところはどんなところですか。」という質問に対して、好きなところを具体的に挙げる児童の割合が低い。自己肯定感を高め、自分を大切にすることができる心を育んでいくために、自己を見つめる指導を工夫する必要がある。道徳の時間においては、特に展開の後段の充実を図っていく。

② 他者について

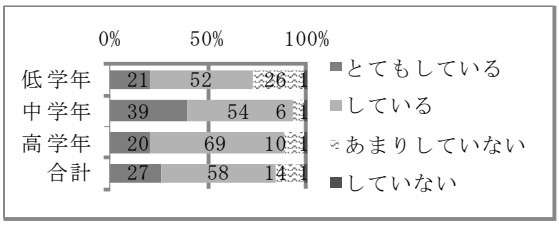
「仲の良い友達の良いと思うところはどんなところですか」

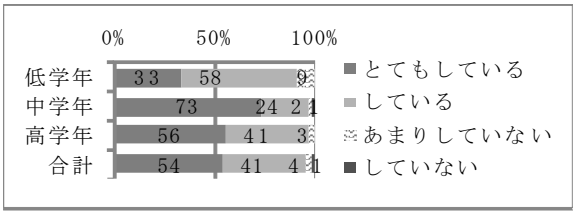






「友達の気持ちを大切に行動していますか」「自分の命や命あるものを大切にしていますか」



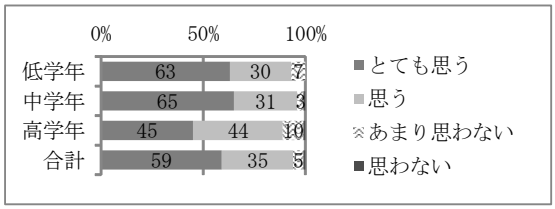


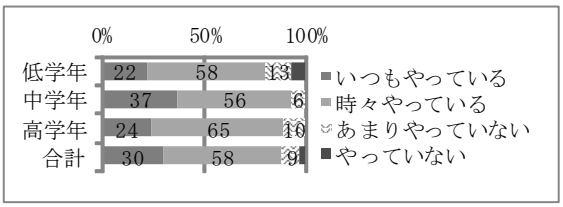
〈考察〉

・「自分の好きなところ」に比べて、「友達のよいと思うところ」は、どの項目も数値が高くなっている。他者との具体的な関わり方についての項目では、肯定的な回答が８割を超えている。子供たちは、他者と関わることのよさや大切さを、日常的に感じていると考えることができる。より他者理解が深まるように、他者との豊かな関わりを通した指導を工夫していく必要がある。

（２）よりよく生きることについての質問

「自分の良い所をのばしていきたいと思いますか」「正しいと思うことを進んでやっていますか」





〈考察〉

・各項目とも肯定的な回答が多かった。子供たちは「よりよく生きたい」という思いを強くもっていることが分かる。子供たちの「よりよく生きたい」という思いを大切にしながら、より自己の生き方についての考えを深められるように、道徳の時間において、指導過程を工夫することが大切である。

３　授業研究

（１）ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用

道徳の時間において、子供たちがねらいとする価値を自分との関わりで捉え、自己を見つめられるようにするためには、「今の自分が価値をどのように捉えているのか」を認識することが必要である。そのように自己を振り返ることは、道徳の時間において、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるための素地となるのではないかと考えた。また、授業者が学級全体の傾向や子供たち一人一人の、ねらいとする価値についての実態を事前に把握しておくことで、中心となる発問をどこにするか等の発問構成や、児童一人一人の考えを深めるための意図的指名に生かすことができる。

（２）資料提示の工夫

子供たちが資料の世界に深く入り込み、ねらいとする道徳的価値についての考えを深めるためには、資料提示の仕方を工夫する必要があると考えた。ＢＧＭを活用したり、大型絵本や紙芝居を用いたりするなどの、資料提示の工夫を行うことで、子供たちが資料に関心をもち、より意欲的に関わることができる。そうすることが、子供たちが、ねらいとする価値と自分自身との関わりを考えるための素地になると考えた。

（３）話合い活動の工夫

他者と関わりながら自己をより深く見つめることができるように、展開の前段において話合い活動の工夫を取り入れた。グループやペアによる話合い活動を取り入れたり、役割演技を取り入れ、学級全体で登場人物の心情を共有し合ったりすることで、子供たちが相互に考えを深められるようにする。ねらいとする道徳的価値について、多様な他者の考えに触れることで、自己の考えをより深めると同時に自他を尊重しようとする心も育まれると考えた。

（４）展開後段の充実

資料を通して深めた、ねらいとする道徳的価値についての考えを、自分の生き方として捉えられるようにすることが、道徳的な実践への意欲につながる。ワークシートを用いたり、「私たちの道徳」や東京都道徳教育教材集を活用したり、発問の仕方を吟味したりすることで、展開の後段の、自己を見つめる時間を充実させることができる。児童が学習した道徳的価値について、より自分自身のこととして考えを深めることが、自己や社会の未来に夢や希望をもち、意欲的に生きようとすることにつながるのではないかと考えた。

4　実践事例

（1）第３学年

①　主題名「本当の友達」＜内容項目＞２－（３）友情

②　資料名「ともだちや」

③　主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

33 名中 31 名は「友達との関係」について前向きに捉えていた。しかし、内容は「遊びに誘ってくれた」と答えている児童が 18 名となっているのをはじめ、目先の損得やその場の楽しさに関する記述が多い。その中でも、「困ったときに助けてくれた」「具合の悪い時、声をかけてくれた」「励まし応援してくれた」「相談に乗ってくれた」等、友達のことを考え助け合おうとする児童が９名いる。学級全体として、多くの児童が目先の損得やその場の楽しさを優先して考えてしまう傾向にあり、道徳の授業を通して友達を理解し、助け合う大切さを深めていく必要があると考えた。

【資料提示の工夫】

中学年の児童が資料に興味や関心をもち、資料内容への理解が深められるよう「大型絵本」の活用が効果的であると考える。

【話合い活動の工夫】

役割演技を取り入れ、クラス全体で登場人物の気持ちや様子を共有化することで、自分の思いを伝え、相手の気持ちも知ることができ、互いに理解しより深く考えることにもつながると考える。

【展開後段の充実】

授業の展開後段で、「友達がいて、よかったと思えるときは、どんなときですか」を問うことで、さらに深く自己を見つめられるようにすると同時に、授業における変容も見取ることができると考える。

④　本時のねらい
友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。

⑤　本時の学習

	学習活動　（○主な発問・予想される児童の反応）	★指導上の留意点
導入	1　ねらいとする道徳的価値について、自分のこととして捉える。 ○　「友達がいて、よかったと思えるときは、どんなときですか」について、アンケートの結果を発表します。	★意識調査の結果を提示し、価値について意識をもたせる。
展開	2　資料「ともだちや」を読んで、話し合う。 ①　「ともだちや」を始めたキツネは、どんな気持ちだったでしょう。 ・お金儲けするぞ。 ・一人はさみしいから、友達を作ろう。 ・友達をたくさん作りたい。 ②　オオカミとトランプしているキツネは、どんな気持ちだったでしょう。 ・オオカミは怖そうだな。 ・しっかりトランプやらないと。 ・早く終わらないかなぁ。 ③　オオカミに「それが、本当の友達か。」と言われたキツネとオオカミについて考えてみましょう。 【中心発問】 ・なんでおこっているの。 ・お金をもらって友達になるのは、間違いだ。 ・本当の友達なら、お金はいらない。 ④　帰り道、スキップしながら、キツネはどんな気持ちになったでしょう。 ・オオカミと友達になれてうれしい。 ・たくさん友達をつくろう。 ・明日はどんなことをして遊ぼうかな。	 ★オオカミは、楽しそうな様子だが、キツネはお金をもらうためにトランプをしているため、楽しくない様子を考えさせる。 ★オオカミとキツネの気持ちに共感させるため、役割演技を取り入れる。「本当の友達」について考えさせる。 ★本当の友達の意味を理解し、オオカミと友達になれたことを喜ぶキツネの嬉しい気持ちを考えさせる。 ★「本当の友達」についての考えを深めさせる。
	3　自分について考える。 ○　友達がいて、よかったと思うときは、どんなときですか。 ・困っているときに、声をかけてくれた。 ・悩んでいるときに、助けてくれた。	★東京都道徳教育教材集「心しなやかに」に記入させる。
終末	4　みんなで歌「友達はいいもんだ」を歌う。	★子供たちが、友達と助け合っていた姿を伝える。

⑥　評価
・キツネの心情の変化に気付き、共感することができたか。
・本当の友達について、自分の考えを深めることができたか。

⑦　授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	Ｔ：「友達がいて、よかったと思えるときは、どんなときですか」について、アンケートの結果を発表します。
展開	Ｔ：「ともだちや」を始めたキツネは、どんな気持ちだったでしょう。 Ｃ：友達がほしかったし、さみしがりやだった。 Ｃ：お金をもらうため。 Ｃ：さみしい。同じ思いの人と仲良くなれると思ったから。 Ｔ：オオカミとトランプしているキツネは、どんな気持ちだったでしょう。 Ｃ：トランプした方が楽しい。 Ｃ：がんばってみよう。 Ｃ：「嫌だ。」と言うと友達じゃないから、トランプしよう。 Ｃ：早く時間が過ぎてほしいな。 Ｃ：トランプだったらいいか。 Ｔ：オオカミに「それが、本当の友達か。」と言われたキツネとオオカミについて考えてみましょう。（役割演技） Ｃ：友達から、お金もらわないの。お金もらわないのが本当の友達だけど。 Ｃ：明日も明後日も来ていいの。 Ｃ：一緒に遊びたかったから呼んだのかな。 Ｃ：「ともだちや」だからお金をもらわないと。 Ｃ：オオカミは、ただ、トランプがしたかっただけ Ｔ：帰り道、スキップしながら、キツネはどんな気持ちになったでしょう。 Ｃ：友達からお金もらうんじゃなかった。 Ｃ：友達ができてよかった。 Ｃ：友達作るぞ。 Ｃ：友達って楽しいな。 Ｃ：本当の友達ができた。 Ｃ：お金をもらうなんてひきょうだ。 Ｔ：友達がいて、よかったことと思うときは、どんなときですか。 Ｃ：休み時間に、遊ぶ友達がいること Ｃ：「大丈夫。」って言ってくれた。 Ｃ：一緒に帰ってくれた。 Ｃ：「また来てね。」「楽しかったよ。」と言ってくれた。 Ｃ：けがをした時に励ましてくれた。 Ｃ：保健室に連れて行ってくれた。
終末	Ｔ：それでは、みんなで「友達はいいもんだ」を歌いましょう。 歌「友達はいいもんだ」

⑧　板書

⑨　成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・「友達がいて、よかったと思えるときは」について、展開後段では、目先の損得やその場の楽しさを優先せずに、友達のことを考え助け合おうとする児童が、半数を超える結果となった。今まで気付かなかった友達の優しさから、信頼し助け合おうとする意識の高まりが見られた。

【資料提示の工夫】

・大型絵本を取り入れ視覚的に訴えることで、児童が登場人物や場面内容を把握しやすく、資料の中に引き込まれ、深く考えることができた。また、板書には場面絵を掲示したことで、さらに資料の世界に浸りやすくなった。

【話合い活動の工夫】

・自分の考えを相手に伝えることで、自分の考えがまとまり、友達の考えと自分の考えを比較し、多様な感じ方や考え方があることに触れた。また、役割演技を通して、オオカミとキツネの気持ちに共感させ、動きやせりふを真似、自分なりの言葉で演じさせることで、理解を深めさせることができた。

【展開後段の充実】

・東京都道徳教育教材集「心しなやかに」を活用し、自己への振り返りを記入した。導入時に紹介したアンケートと同じ内容、(友達がいて、よかったことと思うときは、どんなときですか。）をもう一度、「本当の友達」ついて問いかけ、その場の楽しさや損得を優先するだけでなく、友達の気持ちを考えたり助け合おうとしたりする心情が育まれ、自分の考えが変わったという児童の発言が見られた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・アンケート結果を教師が口頭で発表するだけでなく、模造紙など視覚的に結果を発表することで、友達と自分の道徳的価値の相違点に気付かせるべきであった。

【話合い活動の工夫】

・役割演技に慣れていない児童が多く、「キツネ」「オオカミ」になりきれないまま、演技に入ってしまい､児童のイメージに引っ張られてしまうことが多かった｡役割演技の際には、役になりきるきっかけ（声かけ）を教師が与えなければならない。

【展開後段の充実】

・事前アンケートと同じ内容で発問したため、アンケートと同じ回答をしてしまう児童が見られた。補助発問で、そのときの気持ちまで問いかけることで、より深い考えを引き出すことができたと考える。

（２）第５学年

①　主題名「だれに対しても親切に」　　＜内容項目＞　２－（２）　思いやり・親切
②　資料名「くずれ落ちた段ボール箱」
③　研究主題に迫るための手だて
【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】　　＜調査人数２２名＞

質問内容	回答
今まで、誰に親切にしたことがありますか。(複数回答可)	①　友達…19 名　②家族…20 名　③上級生…６名　④下級生…18 名 ①　地域の人…９名　⑥面識がない人…５名　⑦全くない…０名

考　　察:「全くない」と回答した児童は０名であることから、全ての児童に、親切にした経験があることが分かった。また、回答の割合が高かったのは、「友達…19 名」「家族…20 名」「下級生…18 名」であった。このことから、普段身近に接している人に対しては、進んで親切な行動ができていることが分かった。しかし、普段あまり接点のない「地域の人」や「面識がない人」、年齢が高い「上級生」については、なかなか親切な行動ができていないという現状がうかがえた。このことから、展開後段の発問を、それらの人々に目が向けられるような内容にした。

【資料提示の工夫】
○範読中、資料に関連した BGM を流し、児童を資料の世界に深く入り込ませる。そのことで、登場人物の心情をより深く考えたり、話の内容をしっかり理解させたりする。

【話合い活動の工夫】
○自他の認識を深め、相手の立場に立って行動する態度を育てるために、役割演技を取り入れる。クラス全体で話し合わせることで、それぞれの多様な考えを引き出す。

【展開後段の充実】
○「私たちの道徳」や「東京都道徳教育教材集」、「ワークシート」を計画的に活用する。

＜今回の具体的な使用方法＞
事前に「私たちの道徳（Ｐ61)」に、「友達や家族以外で、親切にしたいけれど、なかなか行動できない」ことを記述させておく。授業の展開後段で、同じ場面に出合ったら、次はどうするか問うことで、さらに深く自己を見つめられるようにするとともに、授業における変容も見取る。

④本時のねらい

だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。

⑤本時の学習

	学習活動　（○主な発問・予想される児童の反応）	★指導上の留意点
導入	1　ねらいとする価値を、自分のこととして捉える。 ○「私たちの道徳」を見て、思いやり・親切について振り返りをしましょう。	★文部科学省「私たちの道徳」を価値への導入に生かす。
展開	2　資料「くずれ落ちた段ボール箱」を読み、話し合う。 ①　おばあさんの様子を見て、私はどんな気持ちだったでしょう。 ・助けたい。・心配だ。・手伝うのは、はずかしい。 ・手伝った方がいいかな。・勇気が出ない。 ②　店員さんに叱られた時、私はどんな気持ちだったでしょう。 ・拾ってあげるのではなかった。 ・喜んでもらえたらいい。・理由も聞かず怒るなんて。 ・叱られても、手伝うべきだ。 ③　おばあさんが立ち去った姿を見て、私はどんな気持ちだったでしょう。（役割演技）【中心発問】 ・お礼を言われてうれしい。・店員さんに、腹が立つ。 ・役に立ててよかった。　・もやもやする。 ④　朝会の話を聞いた時、私はどんな気持ちだったでしょう。 ・すっきりした。・誤解が解けてよかった。 ・認められてうれしい。・助けてよかった。	★親切にしようとする気持ちはあるが、恥ずかしくて勇気がなかなか出ない登場人物の考えに共感できるようにする。 ★役割演技を通して、二人の心の迷いを十分に感じさせるとともに、「思いやり・親切」について、より深く考えさせる。 ★教師はコーディネーターとして、役割演技をサポートする。 ★報われた気持ちと、すっきりしない気持ちを押さえる。 ★わだかまりがなくなり、晴れ晴れとした気持ちになったことを
	3　自己を振り返る。 ○「私たちの道徳」で書いたことを振り返り、次にそのような場面に出合ったらどうしたいですか。 ・電車で席を譲ろうとしたけど、勇気が出なかった。今度からは、相手の気持ちを考えるようにしたい。 ・重い荷物を持った高齢者がいたが、声をかけようとしても言葉が出なかった。次は手伝いたい。	★「私たちの道徳」を読んだ後、ワークシートに記入させる。 ★発表した児童に、「なぜそのように考えたか」質問することで、より深くねらいに迫る。
終末	4　教師の説話を聞く。	★親切を行動に移すために実践しようとしていることを話す。

⑥　評価

・感謝の言葉をかけられてもなお、複雑な気持ちでいる登場人物に共感できたか。

・自分を振り返り、親切にしようとする意欲を高めることができたか。

⑦　授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	Ｔ：みなさんが「友達や家族以外で、親切にしたいけれど、なかなか行動できない」と思うのは、どのようなときでしょうか。（意識調査の結果を示す。）
展開	Ｔ：おばあさんの様子を見て、私はどんな気持ちだったでしょう。 Ｃ:助けたい。　Ｃ：心配だ。　Ｃ：手伝うのは、はずかしい。 Ｃ：手伝った方がいいかな。　Ｃ：拾いたいけど、勇気が出ない。 Ｔ：店員さんに叱られた時、私はどんな気持ちだったでしょう。 Ｃ：拾ってあげるのではなかった。　Ｃ：喜んでもらえたらいい。 Ｃ：理由も聞かずに怒るなんて。　Ｃ：叱られても、手伝うべきだ。 Ｃ：分かってもらえない。　Ｃ：間違ったことはしていない。 Ｔ：おばあさんが立ち去った姿を見て、私はどんな気持ちだったでしょう。（中心発問） Ｃ：お礼を言われてうれしい。 Ｃ：役に立ててよかった。 Ｃ：お礼を言われて、気が楽になった Ｔ：本当に、いい気持ちだけですか。 Ｃ：もやもやした気持ち。 Ｃ：店員さんには、腹が立つ。 Ｃ：納得がいかない。 役割演技 Ｔ：朝会の話を聞いた時、私はどんな気持ちだったでしょう。 Ｃ：気持ちがすっきりした。　Ｃ：誤解が解けてよかった。 Ｃ：認められてうれしい。　Ｃ：困っている人を助けてよかった。 Ｔ：最後にいい気持ちになってよかったですね。 Ｔ:「私たちの道徳」で書いたことを振り返りましょう。次にそのような場面に出合ったらどうしたいですか。 Ｃ：電車で席を譲ろうとしたけど、勇気が出なかった。今度からは、相手の気持ちを考えて積極的に行動しようと思う。 Ｃ：重い荷物を持った高齢者がいたが、声をかけようとしても言葉が出なかった。次は恥ずかしがらずに話しかけ、手伝いたい。
終末	Ｔ：親切を行動に移すために心がけている話をします。

⑧　板書

⑨　成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・実態調査を生かし、発問を構成したことで、多様な児童の発言を豊かに引き出せた。

・実態調査を踏まえ、展開の後段では、価値について直接的に自己の思いを語るような発問をした。価値と自分を関わらせて考えていることが分かる発言が見られた。

【資料提示の工夫】

・BGM を用いたことで、児童はとても集中して範読を聞いていた。資料の内容をより深く考える一助になった。

【話合い活動の工夫】

・年度当初から継続して取り組んだ役割演技を通して、登場人物の気持ちをより深く考えることができた。

【展開後段の充実】

・事前に「私たちの道徳」に記述したものを授業に活用したことで、より深く自己を見つめさせることができた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・実態調査で「親切な行動をしたことが、あまりない」と答えた児童が、本時でどう変容したかを把握し、事後の指導に生かさなければならない。

【資料提示の工夫】

・選曲や流すタイミング、音量など、BGM のよりよい活用法を考えなければならない。

【話合い活動の工夫】

・役割演技において、観衆も含めた話合いがさらに深まるよう支援しなければならない。

【展開後段の工夫】

・「私たちの道徳」で記述していた内容をより意識させながら、ワークシートに書かせる手だてを考えなければならない。

（３）第２学年

① 主題名「いっしょにあそぼう」＜内容項目＞２―（３）友情・助け合い

② 資料名「およげないりすさん」

③ 研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・事前に児童に、道徳的価値についてのアンケート「友達の気持ちを大切に考えて生活をしていますか。」をとった。33 名中、「よくしている」「している」と答えた児童が23名、「あまりしていない」と答える児童が 10 名いた。男女分け隔てなく仲よくできる反面、自分勝手な思いを通そうとしてトラブルになることも多い。自分の気持ちを優先し、友達の気持ちを考えることに、思いが行かないことが考えられる。

・仲間外れにされ、悲しい思いをした「りすさん」、仲間外れにして、「りすさん」に、悲しい思いをさせてしまった「みんな」の気持ちを考えられる発問構成にした。友達の気持ちを「あまり考えていない」と「考えている」と答えた児童を、それぞれ意図的に指名し、活発な意見交流が行えるようにする。

【資料提示の工夫】

・児童がより物語の世界に入れるよう、紙芝居を読み、資料提示する。紙芝居では、登場人物の気持ちに焦点を当てるために、背景を隠し、登場人物の顔だけの絵を見せるなどの工夫をする。

・水の音の BGM を流し、場面の様子を想像しやすくする。

・紙芝居が終わっても、資料への意識が離れないようにするために、黒板に大きな池と島を模した色紙を貼った。

【話合い活動の工夫】

・互いの顔が見えるように、席をコの字型に配置し、話合いが効果的に行われるようにする。

・中心発問では、２人１組を作り、自分の思いを語り合う時間をとる。互いに向き合い、友達の考えを聞くことで自分の考えを更に深められるようにする。

【展開後段の充実】

・中心発問から、展開後段まで穏やかな曲調の BGM を流し、資料を通して感じたことや考えたことが、自分の生活の振り返りに生かされるようにする。

・授業、給食、遊び等の写真を数枚提示し、日常の生活を想起しやすくする。

紙芝居を用いた資料提示

二人一組による話合い

④ 本時のねらい

友達の気持ちを考え、誰とでも仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

⑤ 展開

	学習活動　（○主な発問　・予想される児童の反応）	★指導上の留意点
導入	1 ねらいとする道徳的価値について、自分のこととして捉える。 ○　アンケート「友達の気持ちを大切に考えて生活をしていますか。」の結果について発表します。	★実態調査の結果を提示し、価値（友情）の意識付けをする。
展開	2 資料「およげないりすさん」を読んで、話し合う。 ①「りすさんはおよげないから、だめ。」と言われたとき、りすさんはどんなことを考えていたでしょう。 ・ぼくも一緒に島に行きたい。 ・仲間はずれは、悲しい。 ・ぼくも泳げれば、一緒に行けたのに。 ②「やっぱり、りすさんがいたほうがいいね。」と言ったとき、みんなはどんなことを考えていたでしょう。 ・りすさんも、島であそびたかっただろうな。 ・りすさんは、怒っているかな。 ・りすさん、仲間はずれにしてごめんね。 ③ りすさんと一緒に島に向かうみんなは、どんなことを考えていたでしょう。【中心発問】 ・かめさんが喜んでくれてうれしい。 ・はじめから、こうすればよかったな。 ・みんなで仲よく遊ぼう。	★みんなを見送るりすさんの後ろ姿を掲示し、仲間に入れてもらえないりすさんのさびしい気持ちを感じ取らせる。 ★自己中心的なことを言って、りすさんに悲しい思いをさせてしまったことに気付かせる。 ★遊んでいても少しも楽しくないということから、りすさんのことを考えていること押さえる。 ★笑顔で島に向かう場面絵に着目させ、りすさんの喜ぶ気持ちに共感させる。 ★２人１組を作り、思いを語り合うことで、友達と仲よく助け合うことについての考えを深められようにする。
	3 自分について考える。 ○　友達と仲よくするために、どのようなことをしていますか。 ・ふわふわ言葉を言うようにしている。 ・けんかをした時は、「ごめんね。」と言っている。 ・「入れて。」と言われたら、「いいよ。」と言っている。	★自分の経験をワークシートに記入させる。
終末	4 友達と仲よく過ごしている様子の写真をスライドショーで見る。	★曲「すてきな友達」を BGM として流し、道徳的価値に対する思いをより温められるようにする。

⑥ 評価

・りすさんと一緒に島に向かうみんなの気持ちを考えることができたか。

・生活の中で、友達と仲よくするためにしていることについて振り返ることができたか。

⑦ 授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	T：友達の気持ちを大切に考えて生活をしていますか。」のアンケートの結果について発表します。
展開	T：「りすさんはおよげないから、だめ。」と言われたとき、りすさんはどんなことを考えていたでしょう。 C：どうしてぼくだけだめなの。 C：ぼくはどうして泳げないんだろう。 C：ずるいよ。そんな言い方をしなくてもいいじゃないか。 T：「やっぱり、りすさんがいたほうがいいね。」と言ったとき、みんなはどんなことを考えていたでしょう。 C：りすさんを置いていかなければよかった。 C：りすさんもいないと、自分たちが楽しくない。 C：りすさんは悲しんでいるだろうな。 C：りすさん、ごめんね。 T：りすさんと一緒に島に向かうみんなは、どんなことを考えていたでしょう。 【りすさんの気持ち】 C：やったー！ C：うれしいな。 C：やっぱり僕の友達だ。 【みんなの気持ち】 C：みんなで何をして遊ぼうかな。 C：やっぱり、りすさんを最初から連れて行けばよかった。 C：りすさんがいるから楽しい。 C：明日もみんなで遊ぼう。 T：友達と仲よくするために、どのようなことをしていますか。 C：「ふわふわ言葉」（相手の気持ちを考えた言葉）を使う。 C：「ちくちく言葉」（相手の気持ちを考えない言葉）は使わない。 C：「いいよ。」と言う。 C：「ごめんね。」と自分から言う。 C：けがをしたら、心配してあげる。 C：友達を遊びに誘う。 C：話を聞いてあげる。
終末	T：仲良しなみんなの様子を先生が写真に撮ってあるので、それを見ましょう。 （スライドショー視聴後） T：今、どんな気持ちですか？ C：いい気持ち！

⑧ 板書

⑨ 成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・導入で、アンケートの結果を児童に知らせることで、本時のねらいを焦点化することができた。

・「友達の気持ちをあまり考えていない」とアンケートに答えていた児童の心の変容を見取り、意図的指名に生かすことができた。

【資料提示の工夫】

・紙芝居の背景をかくす方法により、登場人物の気持ちが焦点化され、児童にとって、物語の内容を理解する手掛かりとなった。

・水の音の BGM は、場面の雰囲気づくりに効果的であった。

・黒板に池と島を模した色紙を貼ったことで、児童は物語の順序がつかみやすくなった。

【話合い活動の工夫】

・２人１組の話合い活動では、うなずきながら聞き合う姿から、関心をもって友達の考えを聞いていることが伺えた。

【展開後段の充実】

・日常の写真の提示が、自分の生活を振り返る手掛かりになった児童もいた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・授業内容と児童の発言から考えると、ねらいが「心情」よりも「態度」の方が良かった。

【話合い活動の工夫】

・児童の発言を繰り返し言わなくてもよかった。また、教師の言葉で児童の発言をまとめすぎているところもあった。

・話合い活動において、児童が考えを深めることができるようにするためには、発問構成や板書などの更なる工夫が必要である。

【展開後段の充実】

・BGM を流し、資料と展開後段を一連の流れとして児童に捉えさせるのではなく、それぞれを切って考えさせた方がよかった。

（４）第４学年

① 主題名「何よりも大切なもの」＜内容項目＞３－（１）生命尊重

② 資料名「人間愛の金メダル」

③ 研究主題に迫るための手だて

【資料提示の工夫】

・資料の内容をより理解するために、オリンピックに出場するまでには、大変な努力が必要であり、出場が決まると、周囲の期待も大きいことを話す。

・資料を読む際は、登場人物の葛藤と何よりも生命を大切にした気持ちに共感させるために、語りかけるように読む。

【話合い活動の工夫】

・中心発問では児童の考えを深めるために、キエル兄弟の複雑な心情を円グラフで視覚化した心情円で発表させる。また、心情円を使うことで、言葉では表現しづらい児童も自分の考えを表すことができる。

・葛藤場面では、話合い活動を活発にさせるために以下の発問を用意する。

（つなげる）「同じ考えの人」「付け足して」「もう少し詳しく」「～さんの意見について」

（ひろげる）「別な考えの人」

（きりかえす）「自分たちが助けなくても救助艇はいますよ。」

「ここまで努力してきたのに、レースを中断して助けにいくのですか。」

「今なら金メダルに手が届くかもしれないのに、レースを中断して助けますか。」

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・心情円を使用することで、「このまま進もう。」（黄色）と「助けよう。」（青色）に対する児童考えを把握する。「このまま進もう」の意見を多く出させるために、意図的指名を行う。その際、心情円で黄色の割合の多い児童から指名する。

・人間の弱さに気付いた上で、何よりも生命が大切だと考えられたかを見取るために、話合い後に、心情円を操作させる。

【展開後段の充実】

・児童が展開の後段で、より自分のことについて振り返りやすくするために、年度当初に確認した、「道徳の時間で勉強すること」の中の「生命尊重」についての内容を振り返る。具体的な内容は、「弟が生まれて嬉しかった」「飼っていたかめが死んで悲しかった」等で、児童の体験談を紹介する。

④　本時のねらい

生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする心情を育てる。

⑤　本時の学習

	学習活動（○主な発問と・予想される児童の反応）	★指導上の留意点
導入	1　オリンピックへの選手の思いを知る。 ○2020年に東京でオリンピックが開かれるのを知っていますか。	★東京オリンピックが 2020 年に江東区の会場を中心に開かれることを話したり、オリンピックに出場することの大変さについて確認したりする。
展開	2　資料を視聴して、話し合う。 ①ヨットレースが始まるとき、キエル兄弟はどんな気持ちだったでしょうか。 ・絶対に勝ちたい。　・みんなが期待している。 ・悔いのない戦いをしよう。 ②オーストラリアチームの選手が海に落ちたことに気付いたとき、キエル兄弟の心の中はどうだったでしょうか。 「このまま進もう。」（心情円：黄色） ・別な人が助けてくれる。 ・今までの努力が無駄になってしまう。 ・優勝するチャンスはもうないかもしれない。 ・みんなも金メダルを取ってほしいと願っている。 「助けよう。」（心情円：青色） ・助けず、先に進むことなんでできない。 ・レースは次があるが、命は一つしかない。 ・金メダルをもらうよりも、人の命が大切だ。 ③「人間愛の金メダル」とはなんでしょうか。 ・敵でも相手が困っていたら助けること ・助けることは当たり前だということ。 ・命が大切だということ。	★語りかけるように読む。 ★一番感動したところはどこか理由も含めて聞く。 ★選手たちは国を代表してオリンピックに参加していること、レースには必ず勝ちたいという思いで臨んでいることに気付かせる。 ★キエル兄弟に共感させることで、人間は誰しも弱い心があることに気付かせる。そして、それでも救助したのはどうしてか、考えさせる。 ★心情円を用いて考えさせる。 ★心情円を基に意図的指名を行う。 ★話合いを通して、自分の考えがどう変わったか心情円に表し説明させる。 ★何よりも生命が一番大切だと考えたキエル兄弟の気持ちに気付かせる。
	3　自分の経験を振り返り、話し合う。 ○これまでに、生命が大切だと思ったことはありますか。 ・妹が生まれたとき、とっても嬉しかった。 ・おじいちゃんが亡くなった時、もう会えなくなってしまうと思ったらとても悲しくなった。 ・クラスで飼っているドジョウが死んでしまったとき、悲しかった。	★児童の身近な体験を紹介し、振り返りしやすいようにする。 ★場面だけでなく、そのときの自分の気持ちも振り返らせる。
終末	4　教師の説話を聞く。	★教師自身の生命が大切だと思った体験を話し、余韻をもって終わらせる。

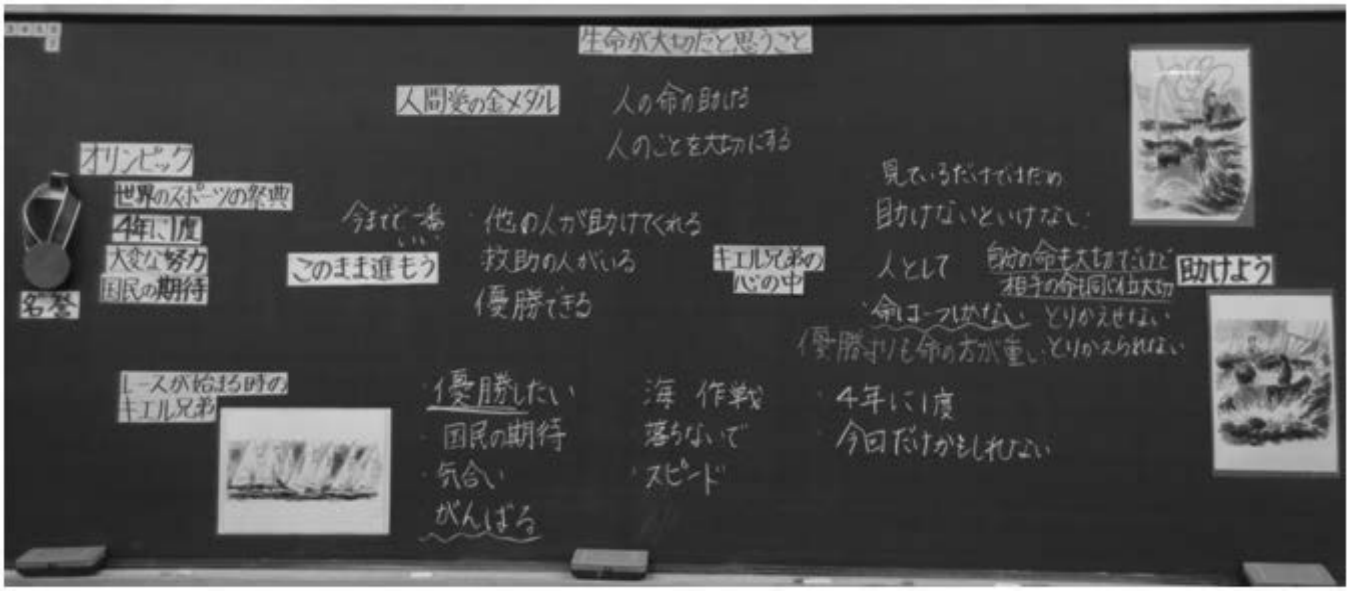
⑥　評価

・キエル兄弟の気持ちに共感し、生命を大切にすることについて、考えを深めることができたか。

⑦　授業記録

	教師の発問と児童の反応・発言など
導入	T：2,020 年東京で開かれ、この江東区が会場になる大会を知っていますか。 C：オリンピック T：オリンピックは４年に１度開かれるスポーツの祭典です。世界中から選ばれた選手が集まり、国民の期待を背負って競技をします。そこで優勝すると金メダルをもらえ、それはとても名誉あることです。 T：今日は 50 年前に東京で行われたオリンピックのヨットレースで実際にあったお話です。
展開	T：どこが心に残りましたか。 C：「レースより人命」と言って助けたこと。C：４年に１度なのに人を助けたところ。 T：みんなが心に残ったと言っていた「生命」について今日は学習します。 T：ヨットレースが始まるとき、キエル兄弟はどんな気持ちだったでしょうか。 C：優勝したい。C：気合いを入れて頑張る。 C：国民の期待を背負っているから頑張ろう。 C：４年は長い。次はないかも。だから、優勝したい。 T：オーストラリアチームの選手が海に落ちたことに気付いたとき、キエル兄弟の心の中はどうだったでしょうか。 【このまま進もう】 C：他のチームの人が助けてくれるだろう。 C：そのうち救助がくる。 C：進まなきゃ優勝できない。 C：勝てそう。 【助けよう】 C：死んでしまったら試合にならない。 C：人として助けないといけない。 C：一つしかない命を見ているだけはできない。 C：自分の命も相手の命も大切。 T：友達の話を聞いて心情円が変わる人はいますか。そのままでもいいです。 C：優勝より人の命の方が大切。C：金メダルより命の方が重い。 C：命を失ったら、取り返しがつかない。 T：助けるけれど、「このまま進もう」という思いが残っていることはおかしいことですか。 C：おかしくない。C：優勝したい気持ちはあるから。 T：「人間愛の金メダル」とは何でしょうか。 C：人の命を助けたということ。C：人のことを思って大切にしたところ C：命を助けたことは人間としてすばらしいということ T：生命が大切だと思ったことはありますか。 C：どじょうが死んだとき悲しかった。
終末	T：生き物係のみんながどじょうをうめにいったり、水槽を洗ったりしているのを見ました。生命は人間だけではありません。生き物係は生命を大切にしていると思いました。先生もこういう気持ちを大切にしていきたいです。

⑧　板書



⑨　成果と課題

成果

【資料提示の工夫】

・オリンピックについて準備された板書カードが見やすく、児童の印象に残っていた。

・金メダルを作成し、提示したことで児童の意識が資料に引きつけられていた。

・資料を語りかけるように読むことで、児童は登場人物の葛藤と生命を大切にした気持ちに共感して聞くことができた。

【話合い活動の工夫】

・心情円を用いたことにより、児童全員が考えを表すことができた。また、自分の考えを分かりすくみんなに伝えることができた。

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・心情円を用いることにより意図的指名をすることができた。

【展開後段の充実】

・資料から児童の生活に話をつなげたので、児童全員が自己の振り返りができていた。

課題

【資料提示の工夫】

・オリンピックの説明については動画や写真などがあった方がイメージしやすい。

【話合い活動の工夫】

・展開後段の充実のために、児童が考える時間や書く時間の確保を確実に行う。

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

・話合い後に心情円を再び動かすことは児童の考えを半ば無理矢理変えてしまうことになるので、発問の仕方に気を付けなければならない。

【展開後段の充実】

・展開の後段での発言を身近な生き物以外についても聞き、命の有限性に迫れるようにした方がよい。また、自己を振り返らせる十分な時間が確保できなかった。

Ⅵ　研究の成果と課題

成果

（１）基礎研究

・「豊かな心で未来を拓く」についての基礎研究を学習指導要領、先行研究、講師の先生方からの御指導いただいたこと等を基に行い、研究員間で共有したことにより、道徳の授業において、教師の指導観や必要な手だてを明確にした上で授業研究を進めることができた。

（２）調査研究

・子供たちが「自分」「他者」そして「よりよく生きること」についてどのように考えているのか、大まかな傾向をつかむことによって、学級及び子供たち一人一人の実態を踏まえた上で、指導の重点を明確にすることができた。このことにより、子供たちの実態に即した研究を行うことができた。

（３）授業研究

【ねらいとする価値に関する実態把握と活用】

・授業者がねらいとする価値について、学級全体の傾向や子供たち一人一人の実態を把握して授業を行ったことによって、発問構成や意図的指名を計画的に行うことができた。このことにより、子供たちの考えをより深めることができた。

【資料提示の工夫】

・大型絵本や紙芝居は子供たちが資料に興味・関心をもち、理解を深めることができた。資料の全体を見せたり、登場人物の表情だけを見せたりするなど、資料の見せ方の工夫を行ったことにより、子供たちは登場人物の気持ちに着目することができた。またＢＧＭを効果的に活用したことで、子供たちは場面の様子を想像することができた。

【話合い活動の工夫】

・役割演技や２人１組のペア学習、心情円などを用い、子供たちの考えを豊かに引き出し、友達の考えと自分の考えを比較し、多様な感じ方や考え方があることに児童が触れることができた。

【展開後段の充実】

・「わたしたちの道徳」や「東京都道徳教育教材集」を活用したことで、ねらいとする道徳的価値について、子供たちが自分との関わりで考えることができた。また、ねらいとする道徳的価値の理解につながる写真を提示したことで、日常生活を想起しやすくなり、自己をみつめることができた。

課題

【ねらいとする価値に関する実態把握と活用】

・調査項目の精選や、実態調査を有効に活用する方法について、検討する必要がある。

【話合い活動の工夫】

・他者理解やねらいとする価値に関する理解の深め方を検討する必要がある。

【展開後段の充実】

・「わたしたちの道徳」や「東京都道徳教育教材集」の活用の仕方については、子供たちの実態や資料に合った活用の仕方について工夫・改善が必要である

平成２６年度　教育研究員名簿
小　学　校　・　道　徳

地区	学校名	職名	氏名
港　　区	神　応　小　学　校	主任教諭	樋口　　稔
新　宿　区	淀 橋 第 四 小 学 校	教　　諭	篠宮　亜由美
台 東 区	金 曽 木 小 学 校	主任教諭	齋藤　　誠
江　東　区	第 六 砂 町 小 学 校	主任教諭	◎神戸　大石
江　東　区	豊　洲　小　学　校	主任教諭	東　　幸恵
江　東　区	有　明　小　学　校	主任教諭	吉野　　崇
北　　区	赤　羽　小　学　校	教　　諭	岡田　千里
板　橋　区	高 島 第 五 小 学 校	主任教諭	○早川　大介
練　馬　区	南 が 丘 小 学 校	主任教諭	桜田　大和
足　立　区	千 寿 第 八 小 学 校	主任教諭	林　　修也
町　田　市	鶴 川 第 三 小 学 校	主幹教諭	石塚　夕希子
国　立　市	国 立 第 四 小 学 校	主任教諭	副島　啓介
国　立　市	国 立 第 六 小 学 校	主任教諭	隅谷　佐知子

◎世話人　○副世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事　二ノ宮　正信

平成２６年度
教育研究員研究報告書

小学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録
（平成２６年度第１８６号
平成２７年３月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８４９
印刷会社　正和商事株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。